

## 女満別地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道網走郡大空町（旧女満別町）、網走郡美幌町
- ② 受益面積：3,160ha
- ③ 主要工事：貯水池1箇所、用水路12条71.0km
- ④ 国営事業費：20,387百万円
- ⑤ 事業期間：昭和48年度～平成13年度  
（計画変更：平成元年度、完了公告年度：平成14年度）
- ⑥ 関連事業：道営畑地帯総合整備事業 3地区

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	66,396
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	67年
総便益額（現在価値化）	③	67,097
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.01
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当 該 事業費 ②	関 連 事業費 ③	評 価 期 間 における 再整備費 ④	評 価 期 間 終了時点の 資産価額 ⑤	総 費 用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	古梅ダム	—	34,484	—	1,434	1,989	33,929
	幹線用水路	—	25,149	—	3,533	3,322	25,360
	小計	—	59,633	—	4,967	5,311	59,289
そ の 他	支線用水路等	—	—	7,334	—	227	7,107
	小計	—	—	7,334	—	227	7,107
合 計		—	59,633	7,334	4,967	5,538	66,396

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		1,650	
	作物生産効果	960	用水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
	営農経費節減効果	706	用水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
	維持管理費節減効果	△ 16	用水施設等の整備を実施したことにより、施設の維持管理費が増減している効果
農業の持続的発展に関する効果		679	
	災害防止効果	679	用水施設の整備を実施したことにより、洪水の災害の発生に伴う農作物、農用地、農業用施設等の農業関係資産、一般資産及び公共資産の被害が防止又は軽減される効果
農村の振興に関する効果		93	
	地域用水効果	3	用水施設の整備を実施したことにより、地域が必要としている防火施設の設置費用等が節減している効果
	一般交通等経費節減効果	35	管理用道路の整備を実施したことにより、林業経営経費が節減している効果
	就業機会創設効果	8	用水施設の整備を実施したことにより、作物生産が増加したことから、集出荷施設等での就業機会を創設している効果
	出荷資材需要拡大効果	47	用水施設の整備を実施したことにより、作物生産が増加したことから、出荷資材の需要を拡大している効果
合計		2,422	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考	
				更新分 に係る 効果 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計				
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①			
1	S47	0.2534	-35			960	0.0%	0	0	0	0	着工
2	S48	0.2636	-34			960	0.0%	0	0	0	0	
3	S49	0.2741	-33			960	0.0%	0	0	0	0	
4	S50	0.2851	-32			960	0.0%	0	0	0	0	
5	S51	0.2965	-31			960	0.0%	0	0	0	0	
~~~~~												
24	H 7	0.6246	-12			960	0.0%	0	0	0	0	
25	H 8	0.6496	-11			960	0.0%	0	0	0	0	
26	H 9	0.6756	-10			960	0.0%	0	0	0	0	
27	H10	0.7026	- 9			960	12.7%	122	122	174	2,204	工事完了
28	H11	0.7307	- 8			960	20.8%	200	200	273	2,230	
29	H12	0.7599	- 7			960	36.2%	348	348	457	2,348	
30	H13	0.7903	- 6			960	56.5%	542	542	686	2,514	
31	H14	0.8219	- 5			960	66.1%	635	635	772	2,535	完了公告
32	H15	0.8548	- 4			960	76.9%	738	738	864	2,563	
33	H16	0.8890	- 3			960	87.6%	841	841	946	2,585	
34	H17	0.9246	- 2			960	95.2%	914	914	989	2,568	
35	H18	0.9615	- 1			960	100.0%	960	960	998	2,519	
36	H19	1.0000	0			960	100.0%	960	960	960	2,422	基準年
37	H20	1.0400	1			960	100.0%	960	960	923	2,329	
38	H21	1.0816	2			960	100.0%	960	960	888	2,240	
39	H22	1.1249	3			960	100.0%	960	960	853	2,153	
40	H23	1.1699	4			960	100.0%	960	960	821	2,071	
~~~~~												
67	H50	3.3731	31			960	100.0%	960	960	285	718	
合計 (総便益額)										24,005	67,097	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 苫前地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道苫前郡苫前町
- ② 受益面積：1,310ha
- ③ 主要工事：頭首工1箇所、揚水機場3箇所、用水路10条29.9km  
排水路2条6.3km
- ④ 国営事業費：9,991百万円
- ⑤ 事業期間：昭和59年度～平成13年度  
(計画変更：平成4年度、完了公告年度：平成14年度)
- ⑥ 関連事業：国営かんがい排水事業、道営畑地帯総合土地改良事業

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	25,088
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	54年
総便益額（現在価値化）	③	25,165
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.00
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当 該 事業費 ②	関 連 事業費 ③	評 価 期 間 における 再 整 備 費 ④	評 価 期 間 終了時点の 資 産 価 額 ⑤	総 費 用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	苫前頭首工	—	605	—	—	19	586
	揚水機	—	1,591	—	688	178	2,101
	用水路等	—	17,260	—	2,491	2,559	17,192
	小計	—	19,456	—	3,179	2,756	19,879
そ の 他	苫前ダム(畑分)	—	—	1,585	395	171	1,809
	用水施設等	—	—	3,435	216	251	3,400
	小計	—	—	5,020	611	422	5,209
合 計		—	19,456	5,020	3,790	3,178	25,088

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		671	
	作物生産効果	334	用水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
	営農経費節減効果	352	用水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
	維持管理費節減効果	△ 15	用水施設等の整備を実施したことにより、施設の維持管理費が増減している効果
農業の持続的発展に関する効果		66	
	災害防止効果	66	用水施設の整備を実施したことにより、洪水の災害の発生に伴う農作物、農用地、農業用施設等の農業関係資産、一般資産及び公共資産の被害が防止又は軽減される効果
農村の振興に関する効果		27	
	就業機会創設効果	13	用水施設の整備を実施したことにより、作物生産が増加したことから、集出荷施設等での就業機会を創設している効果
	出荷資材需要拡大効果	14	用水施設の整備を実施したことにより、作物生産が増加したことから、出荷資材の需要を拡大している効果
合計		764	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	S60	0.4220	-22	79	255	0.0%	0	79	188	399	着工
2	S61	0.4388	-21	79	255	0.0%	0	79	181	383	
3	S62	0.4564	-20	79	255	0.0%	0	79	174	369	
4	S63	0.4746	-19	79	255	0.0%	0	79	167	354	
5	H 1	0.4936	-18	79	255	0.0%	0	79	161	341	
6	H 2	0.5134	-17	79	255	0.0%	0	79	155	328	
7	H 3	0.5339	-16	79	255	0.0%	0	79	149	315	
8	H 4	0.5553	-15	79	255	0.0%	0	79	143	303	
9	H 5	0.5775	-14	79	255	4.8%	12	92	159	335	
10	H 6	0.6006	-13	79	255	13.0%	33	113	188	395	
11	H 7	0.6246	-12	79	255	21.3%	54	134	214	450	
12	H 8	0.6496	-11	79	255	26.8%	68	148	228	478	
13	H 9	0.6756	-10	79	255	30.2%	77	157	232	486	
14	H10	0.7026	- 9	79	255	35.9%	92	171	243	604	工事完了
15	H11	0.7307	- 8	79	255	55.1%	141	220	301	720	
16	H12	0.7599	- 7	79	255	58.0%	148	227	299	713	
17	H13	0.7903	- 6	79	255	71.3%	182	261	331	775	
18	H14	0.8219	- 5	79	255	75.8%	193	273	332	774	完了公告
19	H15	0.8548	- 4	79	255	81.3%	207	287	336	778	
20	H16	0.8890	- 3	79	255	82.3%	210	289	326	754	
21	H17	0.9246	- 2	79	255	82.3%	210	289	313	725	
22	H18	0.9615	- 1	79	255	82.3%	210	289	301	697	
23	H19	1.0000	0	79	255	82.3%	210	289	289	670	基準年
24	H20	1.0400	1	79	255	82.3%	210	289	278	645	
25	H21	1.0816	2	79	255	82.3%	210	289	268	620	
26	H22	1.1249	3	79	255	82.3%	210	289	257	596	
27	H23	1.1699	4	79	255	85.6%	218	298	255	588	
28	H24	1.2167	5	79	255	88.8%	227	306	252	579	
29	H25	1.2653	6	79	255	92.4%	236	315	249	572	
30	H26	1.3159	7	79	255	96.0%	245	324	247	565	
31	H27	1.3686	8	79	255	99.6%	254	334	244	557	
32	H28	1.4233	9	79	255	100.0%	255	334	235	537	
33	H29	1.4802	10	79	255	100.0%	255	334	226	516	
34	H30	1.5395	11	79	255	100.0%	255	334	217	496	
54	H50	3.3731	31	79	255	100.0%	255	334	99	227	
合計 (総便益額)									11,092	25,165	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 苫前（二期）地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道苫前郡苫前町
- ② 受益面積：1,680ha
- ③ 主要工事：貯水池1箇所
- ④ 国営事業費：8,250百万円
- ⑤ 事業期間：平成3年度～平成13年度  
(完了公告年度：平成15年度)
- ⑥ 関連事業：国営かんがい排水事業、道営畑地帯総合土地改良事業

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	36,029
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	49年
総便益額（現在価値化）	③	48,739
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.35
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当 該 事業費 ②	関 連 事業費 ③	評 価 期 間 における 再整備費 ④	評 価 期 間 終了時点の 資産価額 ⑤	総 費 用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	苫前ダム	—	13,211	—	3,294	1,428	15,077
	小計	—	13,211	—	3,294	1,428	15,077
そ の 他	苫前頭首工等	—	—	16,966	2,730	2,144	17,552
	用水施設等	—	—	3,435	216	251	3,400
	小計	—	—	20,401	2,946	2,395	20,952
	合 計	—	13,211	20,401	6,240	3,823	36,029

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		856	
	作物生産効果	467	用水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
	営農経費節減効果	421	用水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
	維持管理費節減効果	△ 32	用水施設等の整備を実施したことにより、施設の維持管理費が増減している効果
農業の持続的発展に関する効果		551	
	災害防止効果	551	用水施設の整備を実施したことにより、洪水の災害の発生に伴う農作物、農用地、農業用施設等の農業関係資産、一般資産及び公共資産の被害が防止又は軽減される効果
農村の振興に関する効果		27	
	就業機会創設効果	13	用水施設の整備を実施したことにより、作物生産が増加したことから、集出荷施設等での就業機会を創設している効果
	出荷資材需要拡大効果	14	用水施設の整備を実施したことにより、作物生産が増加したことから、出荷資材の需要を拡大している効果
多面的機能の発揮に関する効果		102	
	水源かん養効果	102	用水施設を整備したことにより、増加する還元水が河川流況の安定に寄与している効果
合計		1,536	



## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	H 3	0.5339	-16	1,324	1,946	0.0%	0	1,324	2,480	3,338	着工
2	H 4	0.5553	-15	189	278	0.0%	0	189	341	458	
3	H 5	0.5775	-14	189	278	4.8%	13	203	351	502	
4	H 6	0.6006	-13	189	278	13.0%	36	225	375	582	
5	H 7	0.6246	-12	189	278	21.3%	59	248	398	657	
6	H 8	0.6496	-11	189	278	26.8%	75	264	406	693	
7	H 9	0.6756	-10	189	278	30.2%	84	273	404	703	
8	H10	0.7026	- 9	189	278	35.9%	100	289	411	736	
9	H11	0.7307	- 8	189	278	55.1%	153	342	469	1,653	工事完了
10	H12	0.7599	- 7	189	278	58.0%	161	350	461	1,617	
11	H13	0.7903	- 6	189	278	71.3%	198	387	490	1,678	
12	H14	0.8219	- 5	189	278	75.8%	211	400	487	1,653	
13	H15	0.8548	- 4	189	278	81.3%	226	415	486	1,637	完了公告
14	H16	0.8890	- 3	189	278	82.3%	229	418	470	1,582	
15	H17	0.9246	- 2	189	278	82.3%	229	418	452	1,521	
16	H18	0.9615	- 1	189	278	82.3%	229	418	435	1,463	
17	H19	1.0000	0	189	278	82.3%	229	418	418	1,406	基準年
18	H20	1.0400	1	189	278	82.3%	229	418	402	1,352	
19	H21	1.0816	2	189	278	82.3%	229	418	386	1,300	
20	H22	1.1249	3	189	278	82.3%	229	418	372	1,250	
21	H23	1.1699	4	189	278	85.6%	238	427	365	1,223	
22	H24	1.2167	5	189	278	88.8%	247	436	358	1,195	
23	H25	1.2653	6	189	278	92.4%	257	446	353	1,170	
24	H26	1.3159	7	189	278	96.0%	267	456	347	1,145	
25	H27	1.3686	8	189	278	99.6%	277	466	341	1,120	
26	H28	1.4233	9	189	278	100.0%	278	467	328	1,079	
27	H29	1.4802	10	189	278	100.0%	278	467	316	1,037	
49	H51	3.5081	32	189	278	100.0%	278	467	133	468	
合計 (総便益額)									18,787	48,739	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 早来地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道勇払郡安平町（旧早来町）
- ② 受益面積：1,127ha
- ③ 主要工事：貯水池1箇所、揚水機場1箇所、用水路5条25.3km
- ④ 国営事業費：14,779百万円
- ⑤ 事業期間：昭和60年度～平成13年度  
（完了公告年度：平成14年度）
- ⑥ 関連事業：道営畑地帯総合整備事業

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	31,042
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	54年
総便益額（現在価値化）	③	32,581
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.04
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時 点 の 資 産 価 額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評 価 期 間 に お け る 再 整 備 費 ④	評 価 期 間 終 了 時 点 の 資 産 価 額 ⑤	総 費 用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	瑞穂ダム	—	24,086	—	—	1,697	22,389
	揚水機	—	503	—	231	62	672
	用水路	—	4,280	—	783	744	4,319
	小計	—	28,869	—	1,014	2,503	27,380
そ の 他	用水路等	964	—	2,128	954	384	3,662
	小計	964	—	2,128	954	384	3,662
合 計		964	28,869	2,128	1,968	2,887	31,042

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		1,004	
	作物生産効果	170	用水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
	営農経費節減効果	846	用水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
	維持管理費節減効果	△ 12	用水施設等の整備を実施したことにより、施設の維持管理費が増減している効果
農村の振興に関する効果		8	
	地域用水効果	8	用水施設の整備を実施したことにより、地域が必要としている防火施設の設置費用等が節減している効果
多面的機能の発揮に関する効果		85	
	水源効果かん養効果	57	用水施設を整備したことにより、増加する還元水が河川流況の安定に寄与している効果
	景観・環境保全効果	28	用水施設を整備を実施したことにより、地域と調和のとれた景観が保全・創出されている効果
合計		1,097	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	S60	0.4220	-22	26	30	0.0%	0	26	62	516	着工
2	S61	0.4388	-21	26	30	0.0%	0	26	60	510	
3	S62	0.4564	-20	26	30	0.0%	0	26	58	510	
4	S63	0.4746	-19	26	30	0.0%	0	26	55	504	
5	H 1	0.4936	-18	26	30	0.0%	0	26	53	496	
6	H 2	0.5134	-17	26	30	0.0%	0	26	51	512	
7	H 3	0.5339	-16	26	30	0.0%	0	26	49	527	
8	H 4	0.5553	-15	26	30	0.0%	0	26	47	539	
9	H 5	0.5775	-14	26	30	0.0%	0	26	46	549	
10	H 6	0.6006	-13	26	30	0.0%	0	26	44	558	
11	H 7	0.6246	-12	26	30	0.0%	0	26	42	551	
12	H 8	0.6496	-11	26	30	0.0%	0	26	40	539	
13	H 9	0.6756	-10	26	30	0.0%	0	26	39	528	
14	H10	0.7026	- 9	26	30	0.0%	0	26	37	520	工事完了
15	H11	0.7307	- 8	26	30	100.0%	30	56	77	719	
16	H12	0.7599	- 7	26	30	100.0%	30	56	74	701	
17	H13	0.7903	- 6	26	30	100.0%	30	56	71	704	
18	H14	0.8219	- 5	26	30	100.0%	30	56	68	721	完了公告
19	H15	0.8548	- 4	26	30	100.0%	30	56	66	732	
20	H16	0.8890	- 3	26	30	100.0%	30	56	63	775	
21	H17	0.9246	- 2	26	30	100.0%	30	56	61	812	
22	H18	0.9615	- 1	26	30	100.0%	30	56	58	844	
23	H19	1.0000	0	26	30	100.0%	30	56	56	865	基準年
24	H20	1.0400	1	26	30	100.0%	30	56	54	852	
25	H21	1.0816	2	26	30	100.0%	30	56	52	830	
26	H22	1.1249	3	26	30	100.0%	30	56	50	821	
27	H23	1.1699	4	26	30	100.0%	30	56	48	816	
54	H50	3.3731	31	26	30	100.0%	30	56	17	325	
合計 (総便益額)									2,262	32,581	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

なお、年効果額56百万円は、水田に係る作物生産効果を示したものであり、「(3)年総効果額の総括」の作物生産効果の年総効果(便益)額170百万円の内数である。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 大和地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道広尾郡大樹町、中川郡幕別町（旧忠類村）
- ② 受益面積：2,550ha
- ③ 主要工事：排水路2条21.5km
- ④ 国営事業費：6,987百万円
- ⑤ 事業期間：平成4年度～平成13年度  
（完了公告年度：平成14年度）
- ⑥ 関連事業：基盤整備促進事業

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	10,366
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	50年
総便益額（現在価値化）	③	14,328
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.38
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当 該 事業費 ②	関 連 事業費 ③	評 価 期 間 における 再整備費 ④	評 価 期 間 終了時点の 資産価額 ⑤	総 費 用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	萌和排水路	—	7,390	—	938	883	7,445
	大和排水路	—	2,848	—	334	318	2,864
	小計	—	10,238	—	1,272	1,201	10,309
そ の 他	団体営関連事業	—	—	58	—	1	57
	小計	—	—	58	—	1	57
合 計		—	10,238	58	1,272	1,202	10,366

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

(3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		429	
作物生産効果		191	排水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
営農経費節減効果		239	排水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
維持管理費節減効果		△ 1	排水施設の整備を実施したことにより、施設の維持管理費が増減している効果
合計		429	

(4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価 期間	年 度	割引率 (1+割引率) ①	経 過 年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	H 4	0.5553	-15	96	96	0.0%	0	96	172	309	着工
2	H 5	0.5775	-14	96	96	0.0%	0	96	165	297	
3	H 6	0.6006	-13	96	96	1.4%	1	97	161	292	
4	H 7	0.6246	-12	96	96	7.1%	7	102	164	304	
5	H 8	0.6496	-11	96	96	15.3%	15	110	170	325	
6	H 9	0.6756	-10	96	96	28.3%	27	123	181	362	
7	H10	0.7026	- 9	96	96	35.7%	34	130	184	375	
8	H11	0.7307	- 8	96	96	46.3%	44	140	191	398	
9	H12	0.7599	- 7	96	96	59.3%	57	152	200	427	
10	H13	0.7903	- 6	96	96	88.3%	84	180	228	505	工事完了
11	H14	0.8219	- 5	96	96	98.6%	94	190	231	518	完了公告
12	H15	0.8548	- 4	96	96	98.6%	94	190	222	498	
13	H16	0.8890	- 3	96	96	98.9%	94	190	214	480	
14	H17	0.9246	- 2	96	96	99.4%	95	190	206	463	
15	H18	0.9615	- 1	96	96	100.0%	96	191	199	446	
16	H19	1.0000	0	96	96	100.0%	96	191	191	429	基準年
17	H20	1.0400	1	96	96	100.0%	96	191	184	413	
18	H21	1.0816	2	96	96	100.0%	96	191	177	397	
19	H22	1.1249	3	96	96	100.0%	96	191	170	382	
20	H23	1.1699	4	96	96	100.0%	96	191	163	367	
~~~~~											
50	H53	3.7943	34	96	96	100.0%	96	191	50	113	
合計 (総便益額)									6,597	14,328	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 美咲地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道斜里郡斜里町、清里町
- ② 受益面積：2,820ha
- ③ 主要工事：排水機場1箇所、排水路11条26.8km
- ④ 国営事業費：9,474百万円
- ⑤ 事業期間：平成4年度～平成13年度  
(完了公告年度：平成14年度)
- ⑥ 関連事業：道営畑地帯総合整備事業2地区

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	16,554
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	50年
総便益額（現在価値化）	③	36,263
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	2.19
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当 該 事業費 ②	関 連 事業費 ③	評 価 期 間 における 再 整 備 費 ④	評 価 期 間 終了時点の 資 産 価 額 ⑤	総 費 用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	美咲排水機場	29	4,986	—	2,435	758	6,692
	排水路	—	9,253	—	1,397	1,315	9,335
	小計	29	14,239	—	3,832	2,073	16,027
そ の 他	排水路	—	—	492	64	29	527
	小計	—	—	492	64	29	527
合 計		29	14,239	492	3,896	2,102	16,554

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		1,039	
作物生産効果		726	排水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
営農経費節減効果		325	排水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
維持管理費節減効果		△ 12	排水施設の整備を実施したことにより、施設の維持管理費が増減している効果
合計		1,039	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	H 4	0.5553	-15	363	363	0.0%	0	363	653	904	着工
2	H 5	0.5775	-14	363	363	0.3%	1	364	630	872	
3	H 6	0.6006	-13	363	363	7.0%	25	388	646	898	
4	H 7	0.6246	-12	363	363	15.6%	57	419	671	937	
5	H 8	0.6496	-11	363	363	29.0%	105	468	720	1,012	
6	H 9	0.6756	-10	363	363	40.7%	148	510	756	1,066	
7	H10	0.7026	- 9	363	363	48.0%	174	537	764	1,081	
8	H11	0.7307	- 8	363	363	59.0%	214	577	789	1,120	
9	H12	0.7599	- 7	363	363	69.8%	253	616	811	1,153	
10	H13	0.7903	- 6	363	363	90.3%	328	690	874	1,248	工事完了
11	H14	0.8219	- 5	363	363	97.0%	352	715	870	1,244	完了公告
12	H15	0.8548	- 4	363	363	98.4%	357	720	842	1,205	
13	H16	0.8890	- 3	363	363	99.0%	359	722	812	1,162	
14	H17	0.9246	- 2	363	363	99.0%	359	722	781	1,118	
15	H18	0.9615	- 1	363	363	100.0%	363	726	755	1,080	
16	H19	1.0000	0	363	363	100.0%	363	726	726	1,039	基準年
17	H20	1.0400	1	363	363	100.0%	363	726	698	999	
18	H21	1.0816	2	363	363	100.0%	363	726	671	960	
19	H22	1.1249	3	363	363	100.0%	363	726	645	923	
20	H23	1.1699	4	363	363	100.0%	363	726	620	888	
~~~~~											
50	H53	3.7943	34	363	363	100.0%	363	726	191	274	
合計 (総便益額)									25,460	36,263	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。



## 西大野地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道北斗市（旧大野町）
- ② 受益面積：320ha
- ③ 主要工事：排水路1条2.6km
- ④ 国営事業費：1,948百万円
- ⑤ 事業期間：平成10年度～平成13年度  
(完了公告年度：平成14年度)

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	2,643
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	44年
総便益額（現在価値化）	③	7,351
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	2.78
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事 業 着 工 時 点 の 資 産 価 額 ①	当 該 事 業 費 ②	関 連 事 業 費 ③	評 価 期 間 に お け る 再 整 備 費 ④	評 価 期 間 終 了 時 点 の 資 産 価 額 ⑤	総 費 用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	文月排水路	—	2,619	—	481	457	2,643
	小計	—	2,619	—	481	457	2,643
その他		—	—	—	—	—	—
合 計		—	2,619	—	481	457	2,643

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

(3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		249	
作物生産効果		222	排水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
営農経費節減効果		28	排水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
維持管理費節減効果		△ 1	排水施設の整備を実施したことにより、施設の維持管理費が増減している効果
農業の持続発展に関する効果		13	
災害防止効果		13	排水施設の整備を実施したことにより、農地、農業用施設、一般・公共施設への被害が解消されている効果
合計		262	

(4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+利率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 ②	新設及び機能向上分 に係る効果		計		同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤			
1	H10	0.7026	- 9	111	111	0.0%	0	111	158	172	着工
2	H11	0.7307	- 8	111	111	0.0%	0	111	152	165	
3	H12	0.7599	- 7	111	111	22.0%	24	135	178	200	
4	H13	0.7903	- 6	111	111	59.4%	66	177	224	259	工事完了
5	H14	0.8219	- 5	111	111	100.0%	111	222	270	318	完了公告
6	H15	0.8548	- 4	111	111	100.0%	111	222	259	306	
7	H16	0.8890	- 3	111	111	100.0%	111	222	249	294	
8	H17	0.9246	- 2	111	111	100.0%	111	222	240	283	
9	H18	0.9615	- 1	111	111	100.0%	111	222	231	272	
10	H19	1.0000	0	111	111	100.0%	111	222	222	262	基準年
11	H20	1.0400	1	111	111	100.0%	111	222	213	252	
12	H21	1.0816	2	111	111	100.0%	111	222	205	242	
13	H22	1.1249	3	111	111	100.0%	111	222	197	233	
14	H23	1.1699	4	111	111	100.0%	111	222	189	224	
~~~~~											
44	H53	3.7943	34	111	111	100.0%	111	222	58	69	
合計 (総便益額)									6,261	7,351	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 留辺蘂地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道北見市（旧留辺蘂町）
- ② 受益面積：342ha
- ③ 主要工事：排水路1条4.1km
- ④ 国営事業費：1,249百万円
- ⑤ 事業期間：平成11年度～平成13年度  
（完了公告年度：平成14年度）
- ⑥ 関連事業：道営畑地帯総合整備事業

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

（単位：百万円）

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	1,670
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	43年
総便益額（現在価値化）	③	4,227
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	2.53
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

（単位：百万円）

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評価期間 における 再整備費 ④	評価期間 終了時点の 資産価額 ⑤	総費用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当該事業	排水路	—	1,654	—	250	235	1,669
	小計	—	1,654	—	250	235	1,669
その他	排水路	—	—	1	—	—	1
	小計	—	—	1	—	—	1
合 計		—	1,654	1	250	235	1,670

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

(3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		156	
作物生産効果		124	排水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
営農経費節減効果		32	排水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
維持管理費節減効果		△ 0	排水施設の整備を実施したことにより、施設の維持管理費が増減している効果
合計		156	

(4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	H11	0.7307	- 8	62	62	0.0%	0	62	85	101	着工
2	H12	0.7599	- 7	62	62	0.0%	0	62	82	97	
3	H13	0.7903	- 6	62	62	26.1%	16	78	99	120	工事完了
4	H14	0.8219	- 5	62	62	100.0%	62	124	151	190	完了公告
5	H15	0.8548	- 4	62	62	100.0%	62	124	145	183	
6	H16	0.8890	- 3	62	62	100.0%	62	124	140	176	
7	H17	0.9246	- 2	62	62	100.0%	62	124	134	169	
8	H18	0.9615	- 1	62	62	100.0%	62	124	129	162	
9	H19	1.0000	0	62	62	100.0%	62	124	124	156	基準年
10	H20	1.0400	1	62	62	100.0%	62	124	119	150	
11	H21	1.0816	2	62	62	100.0%	62	124	115	144	
12	H22	1.1249	3	62	62	100.0%	62	124	110	139	
13	H23	1.1699	4	62	62	100.0%	62	124	106	133	
~~~~~											
43	H53	3.7943	34	62	62	100.0%	62	124	33	41	
合計 (総便益額)									3,375	4,227	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 滝上地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道紋別市、紋別郡滝上町
- ② 受益面積：3,269ha
- ③ 主要工事：農地造成1,315ha、附帯土地改良121ha  
頭首工1箇所、幹線用水路16条79.2km、支線用水路24条20.6km  
幹線道路2条8.0km、支線道路5条10.3km、排水路4条13.7km
- ④ 国営事業費：24,429百万円
- ⑤ 事業期間：昭和49年度～平成13年度  
(計画変更：平成11年度、完了公告年度：平成14年度)
- ⑥ 関連事業：道営畑地帯総合整備事業

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	52,116
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	68年
総便益額（現在価値化）	③	52,929
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.01
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評価期間 における 再整備費 ④	評価期間 終了時点の 資産価額 ⑤	総費用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	滝上頭首工	—	3,107	—	—	91	3,016
	揚水機等	—	27,107	—	4,052	3,799	27,360
	排水路	—	3,266	—	276	282	3,260
	農地造成等	—	17,574	—	1,533	1,236	17,871
	小計	—	51,054	—	5,861	5,408	51,507
そ の 他	排水路	—	—	616	—	7	609
	小計	—	—	616	—	7	609
合 計		—	51,054	616	5,861	5,415	52,116

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		1,030	
作物生産効果		821	農地造成及び用水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
営農経費節減効果		175	農地造成及び用水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
維持管理費節減効果		△ 14	用水施設等の整備を実施したことにより、維持管理費が増減している効果
営農に係る走行経費節減効果		48	幹線道路等の整備を実施したことにより、農業交通に係る走行経費が節減している効果
農村の振興に関する効果		1	
一般交通等経費節減効果		1	幹線道路等の整備を実施したことにより、一般交通等に係る走行経費及び林業経営経費が節減している効果
合計		1,031	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年 度	割引率 (1+割引率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	S49	0.2741	-33		821	0.0%	0	0	0	43	着工
2	S50	0.2851	-32		821	0.0%	0	0	0	41	
3	S51	0.2965	-31		821	0.0%	0	0	0	40	
4	S52	0.3083	-30		821	0.7%	6	6	19	61	
5	S53	0.3207	-29		821	3.7%	30	30	95	152	
6	S54	0.3335	-28		821	6.1%	50	50	150	221	
7	S55	0.3468	-27		821	9.1%	75	75	215	299	
8	S56	0.3607	-26		821	14.3%	117	117	325	431	
9	S57	0.3751	-25		821	19.7%	162	162	431	558	
10	S58	0.3901	-24		821	26.3%	216	216	553	704	
11	S59	0.4057	-23		821	34.2%	281	281	692	873	
12	S60	0.4220	-22		821	42.0%	345	345	817	1,024	
13	S61	0.4388	-21		821	49.2%	404	404	920	1,150	
~~~~~											
25	H10	0.7026	-9		821	97.8%	803	803	1,143	1,421	
26	H11	0.7307	-8		821	98.7%	810	810	1,109	1,383	
27	H12	0.7599	-7		821	100.0%	821	821	1,080	1,350	
28	H13	0.7903	-6		821	100.0%	821	821	1,039	1,302	工事完了
29	H14	0.8219	-5		821	100.0%	821	821	999	1,253	完了公告
30	H15	0.8548	-4		821	100.0%	821	821	960	1,205	
31	H16	0.8890	-3		821	100.0%	821	821	923	1,160	
32	H17	0.9246	-2		821	100.0%	821	821	888	1,115	
33	H18	0.9615	-1		821	100.0%	821	821	854	1,072	
34	H19	1.0000	0		821	100.0%	821	821	821	1,031	基準年
35	H20	1.0400	1		821	100.0%	821	821	789	991	
36	H21	1.0816	2		821	100.0%	821	821	759	953	
37	H22	1.1249	3		821	100.0%	821	821	730	916	
38	H23	1.1699	4		821	100.0%	821	821	702	881	
~~~~~											
68	H53	3.7943	34		821	100.0%	821	821	216	272	
合計 (総便益額)								42,078	52,929		

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## ユーラップ地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道二海郡八雲町
- ② 受益面積：625ha
- ③ 主要工事：区画整理583ha、農地造成42ha、支線道路4条5.2km  
排水路3条3.0km
- ④ 国営事業費：5,083百万円
- ⑤ 事業期間：平成5年度～平成13年度  
(計画変更：平成10年度、完了公告年度：平成14年度)

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	8,200
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	49年
総便益額（現在価値化）	③	9,550
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.16
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評価期間 における 再整備費 ④	評価期間 終了時点の 資産価額 ⑤	総費用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	区画整理	—	3,726	—	687	644	3,769
	農地造成	—	137	—	—	13	124
	支線道路	—	3,067	—	912	441	3,538
	排水路	—	728	—	145	104	769
	小計	—	7,658	—	1,744	1,202	8,200
その他		—	—	—	—	—	—
合 計		—	7,658	—	1,744	1,202	8,200

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。



## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		274	
	作物生産効果	201	区画整理、農地造成及び排水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
	営農経費節減効果	36	区画整理、農地造成及び排水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
	維持管理費節減効果	△ 1	排水施設及び幹線道路等の整備を実施したことにより、維持管理費が増減している効果
	営農に係る走行経費節減効果	38	幹線道路等の整備を実施したことにより、農業交通に係る走行経費が節減している効果
農村の振興に関する効果		16	
	一般交通等経費節減効果	16	幹線道路等の整備を実施したことにより、一般交通等に係る走行経費及び林業経営経費が節減している効果
合計		290	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年 度	割引率 (1+翻率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考	
				更新分 に係る 効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計				
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①			
1	H 5	0.5775	-14	57	144	0.0%	0	57	98	142	着工	
2	H 6	0.6006	-13	57	144	0.0%	0	57	95	144		
3	H 7	0.6246	-12	57	144	4.4%	6	63	101	155		
4	H 8	0.6496	-11	57	144	14.6%	21	78	120	193		
5	H 9	0.6756	-10	57	144	44.4%	64	121	179	270		
6	H10	0.7026	- 9	57	144	57.9%	83	140	200	297		
7	H11	0.7307	- 8	57	144	78.1%	113	169	232	345		
8	H12	0.7599	- 7	57	144	100.0%	144	201	264	381		
9	H13	0.7903	- 6	57	144	100.0%	144	201	254	367	工事完了	
10	H14	0.8219	- 5	57	144	100.0%	144	201	244	353	完了公告	
11	H15	0.8548	- 4	57	144	100.0%	144	201	235	339		
12	H16	0.8890	- 3	57	144	100.0%	144	201	226	326		
13	H17	0.9246	- 2	57	144	100.0%	144	201	217	313		
14	H18	0.9615	- 1	57	144	100.0%	144	201	209	301		
15	H19	1.0000	0	57	144	100.0%	144	201	201	290	基準年	
16	H20	1.0400	1	57	144	100.0%	144	201	193	279		
17	H21	1.0816	2	57	144	100.0%	144	201	186	268		
18	H22	1.1249	3	57	144	100.0%	144	201	179	258		
19	H23	1.1699	4	57	144	100.0%	144	201	172	248		
~~~~~												
49	H53	3.7943	34	57	144	100.0%	144	201	53	76		
合計 (総便益額)									6,574		9,550	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 豊住地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道網走郡大空町（旧女満別町）
- ② 受益面積：892ha
- ③ 主要工事：区画整理887ha、農地造成5ha、幹線道路3条9.2km  
支線道路4条3.7km、排水路10条12.6km
- ④ 国営事業費：7,866百万円
- ⑤ 事業期間：平成5年度～平成13年度  
(計画変更：平成10年度、完了公告年度：平成14年度)
- ⑥ 関連事業：国営かんがい排水事業

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	15,992
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	49年
総便益額（現在価値化）	③	18,423
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.15
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評価期間 における 再整備費 ④	評価期間 終了時点の 資産価額 ⑤	総費用 ⑥= , ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	区画整理	—	3,632	—	671	629	3,674
	農地造成	—	155	—	—	17	138
	幹線道路	—	3,488	—	554	519	3,523
	支線道路	—	967	—	165	150	982
	排水路	—	3,305	—	572	511	3,366
	小計	—	11,547	—	1,962	1,826	11,683
そ の 他	豊住排水機	—	—	1,454	181	70	1,565
	排水路	—	—	2,830	60	146	2,744
	小計	—	—	4,284	241	216	4,309
合 計	—	11,547	4,284	2,203	2,042	15,992	

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		618	
作物生産効果		304	区画整理、農地造成及び排水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
営農経費節減効果		274	区画整理、農地造成及び排水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
維持管理費節減効果		△ 2	排水施設及び幹線道路等の整備を実施したことにより、維持管理費が増減している効果
営農に係る走行経費節減効果		42	幹線道路等の整備を実施したことにより、農業交通に係る走行経費が節減している効果
合計		618	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	H 5	0.5775	-14	23	282	0.0%	0	23	39	60	着工
2	H 6	0.6006	-13	23	282	0.0%	0	23	38	58	
3	H 7	0.6246	-12	23	282	0.0%	0	23	36	56	
4	H 8	0.6496	-11	23	282	12.2%	34	57	88	163	
5	H 9	0.6756	-10	23	282	25.3%	71	94	139	274	
6	H10	0.7026	-9	23	282	50.1%	141	164	233	462	
7	H11	0.7307	-8	23	282	64.1%	181	203	278	560	
8	H12	0.7599	-7	23	282	78.1%	220	243	319	650	
9	H13	0.7903	-6	23	282	99.3%	280	303	383	777	工事完了
10	H14	0.8219	-5	23	282	100.0%	282	304	370	749	完了公告
11	H15	0.8548	-4	23	282	100.0%	282	304	356	720	
12	H16	0.8890	-3	23	282	100.0%	282	304	343	693	
13	H17	0.9246	-2	23	282	100.0%	282	304	329	666	
14	H18	0.9615	-1	23	282	100.0%	282	304	317	641	
15	H19	1.0000	0	23	282	100.0%	282	304	304	616	基準年
16	H20	1.0400	1	23	282	100.0%	282	304	293	592	
17	H21	1.0816	2	23	282	100.0%	282	304	282	569	
18	H22	1.1249	3	23	282	100.0%	282	304	271	547	
19	H23	1.1699	4	23	282	100.0%	282	304	260	526	
49	H53	3.7943	34	23	282	100.0%	282	304	80	162	
合計(総便益額)									9.178	18,423	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 新得地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道上川郡新得町
- ② 受益面積：1,398ha
- ③ 主要工事：区画整理1,375ha、農地造成23ha、幹線道路2条9.7km  
支線道路1条1.5km、排水路3条6.7km
- ④ 国営事業費：5,064百万円
- ⑤ 事業期間：平成6年度～平成13年度  
(計画変更：平成10年度、完了公告年度：平成14年度)
- ⑥ 関連事業：直轄明渠排水事業

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	9,375
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	48年
総便益額（現在価値化）	③	12,998
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.38
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評価期間 における 再整備費 ④	評価期間 終了時点の 資産価額 ⑤	総費用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	区画整理	—	1,954	—	349	220	2,083
	農地造成	—	148	—	—	16	132
	幹線道路	—	3,016	—	500	476	3,040
	支線道路	—	392	—	70	66	396
	排水路	—	1,908	—	261	223	1,946
	小計	—	7,418	—	1,180	1,001	7,597
そ の 他	排水路	—	—	1,690	238	150	1,778
	小計	—	—	1,690	238	150	1,778
合 計		—	7,418	1,690	1,418	1,151	9,375

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		364	
	作物生産効果	199	区画整理、農地造成及び排水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
	営農経費節減効果	153	区画整理、農地造成及び排水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
	維持管理費節減効果	1	排水施設及び幹線道路等の整備を実施したことにより、維持管理費が節減している効果
	営農に係る走行経費節減効果	11	幹線道路等の整備を実施したことにより、農業交通に係る走行経費が節減している効果
農村の振興に関する効果		41	
	一般交通等経費節減効果	41	幹線道路等の整備を実施したことにより、一般交通等に係る走行経費及び林業経営経費が節減している効果
合計		405	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割引率)	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	H 6	0.6006	-13	98	101	0.0%	0	98	164	288	着工
2	H 7	0.6246	-12	98	101	0.0%	0	98	157	277	
3	H 8	0.6496	-11	98	101	0.7%	1	99	152	270	
4	H 9	0.6756	-10	98	101	15.4%	16	114	168	312	
5	H10	0.7026	- 9	98	101	25.0%	25	124	176	335	
6	H11	0.7307	- 8	98	101	49.8%	50	149	203	397	
7	H12	0.7599	- 7	98	101	79.1%	80	178	234	468	
8	H13	0.7903	- 6	98	101	95.2%	96	194	246	500	工事完了
9	H14	0.8219	- 5	98	101	100.0%	101	199	242	493	完了公告
10	H15	0.8548	- 4	98	101	100.0%	101	199	233	474	
11	H16	0.8890	- 3	98	101	100.0%	101	199	224	456	
12	H17	0.9246	- 2	98	101	100.0%	101	199	215	438	
13	H18	0.9615	- 1	98	101	100.0%	101	199	207	422	
14	H19	1.0000	0	98	101	100.0%	101	199	199	405	基準年
15	H20	1.0400	1	98	101	100.0%	101	199	191	390	
16	H21	1.0816	2	98	101	100.0%	101	199	184	375	
17	H22	1.1249	3	98	101	100.0%	101	199	177	360	
18	H23	1.1699	4	98	101	100.0%	101	199	170	346	
48	H53	3.7943	34	98	101	100.0%	101	199	52	107	
合計 (総便益額)									6,486	12,998	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したため、数値が一致しない場合がある。



## 新下川地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道上川郡下川町
- ② 受益面積：1,137ha
- ③ 主要工事：区画整理1,116ha、農地造成21ha、幹線道路2条1.4km  
支線道路12条15.1km
- ④ 国営事業費：8,089百万円
- ⑤ 事業期間：平成7年度～平成13年度  
(計画変更：平成13年度、完了公告年度：平成14年度)

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	12,358
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	47年
総便益額（現在価値化）	③	13,288
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.07
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評価期間 における 再整備費 ④	評価期間 終了時点の 資産価額 ⑤	総費用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	区画整理	—	5,984	—	401	138	6,247
	農地造成	—	241	—	2	1	242
	幹線道路	—	549	—	155	35	669
	支線道路	—	3,557	—	1,039	477	4,119
	排水路	—	1,071	—	197	187	1,081
	小計	—	11,402	—	1,794	838	12,358
その他	—	—	—	—	—	—	—
合 計	—	11,402	—	1,794	838	12,358	

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

## (3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
食料の安定供給の確保に関する効果		469	
作物生産効果		87	区画整理、農地造成及び排水施設の整備を実施したことにより、農作物生産量が増加している効果
営農経費節減効果		370	区画整理、農地造成及び排水施設の整備を実施したことにより、営農経費が節減している効果
維持管理費節減効果		△ 13	排水施設及び幹線道路等の整備を実施したことにより、維持管理費が増減している効果
営農に係る走行経費節減効果		25	幹線道路等の整備を実施したことにより、農業交通に係る走行経費が節減している効果
農村の振興に関する効果		7	
一般交通等経費節減効果		7	幹線道路等の整備を実施したことにより、一般交通等に係る走行経費及び林業経営経費が節減している効果
合計		476	

## (4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+利率) ①	経過年	作物生産効果						割引後 効果額 合計	備考	
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計				
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①			
1	H 7	0.6246	-12		84	0.0%	0	0	0	16	着工	
2	H 8	0.6496	-11		84	0.0%	0	0	0	15		
3	H 9	0.6756	-10		84	1.6%	1	1	2	25		
4	H10	0.7026	- 9		84	20.9%	17	17	25	160		
5	H11	0.7307	- 8		84	44.8%	37	37	51	303		
6	H12	0.7599	- 7		84	61.3%	51	51	67	395		
7	H13	0.7903	- 6		84	75.7%	63	63	80	463	工事完了	
8	H14	0.8219	- 5		84	100.0%	84	84	102	579	完了公告	
9	H15	0.8548	- 4		84	100.0%	84	84	98	556		
10	H16	0.8890	- 3		84	100.0%	84	84	94	535		
11	H17	0.9246	- 2		84	100.0%	84	84	90	514		
12	H18	0.9615	- 1		84	100.0%	84	84	87	495		
13	H19	1.0000	0		84	100.0%	84	84	84	476	基準年	
14	H20	1.0400	1		84	100.0%	84	84	80	457		
15	H21	1.0816	2		84	100.0%	84	84	77	440		
16	H22	1.1249	3		84	100.0%	84	84	74	423		
17	H23	1.1699	4		84	100.0%	84	84	71	407		
~~~~~												
47	H53	3.7943	34		84	100.0%	84	84	22	125		
合計 (総便益額)									2,318		13,288	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

なお、年効果額84百万円は、区画整理に係る作物生産効果額を示したものであり、「(3) 年総効果額の総括」の作物生産効果の年総効果(便益)額87百万円の内数である。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。

## 羽幌二股地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道苫前郡羽幌町
- ② 受益面積：地すべり区域146ha、被害想定区域1,489ha
- ③ 主要工事：抑制工1式、抑止工1式
- ④ 国営事業費：5,097百万円
- ⑤ 事業期間：平成4年度～平成13年度（完了公告年度：平成14年度）

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	8,705
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	50年
総便益額（現在価値化）	③	8,994
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	1.03
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評価期間 における 再整備費 ④	評価期間 終了時点の 資産価額 ⑤	総費用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	抑制工	—	4,545	—	703	636	4,612
	抑止工	—	4,433	—	—	340	4,093
	小計	—	8,978	—	703	976	8,705
その他		—	—	—	—	—	—
合 計		—	8,978	—	703	976	8,705

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

(3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
農業用施設の災害防止効果		263	地すべり対策を行うことにより、地すべりによるダム施設への被害が未然に防止される効果
作物の災害防止効果		50	地すべり対策を行うことにより、地すべりによる作物への被害が未然に防止される効果
その他資産の災害防止効果		46	地すべり対策を行うことにより、地すべりによる山林、道路への被害が未然に防止される効果
合計		359	

(4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価期間	年度	割引率 (1+割引率) ①	経過年	地すべり被害防止額					割引後 効果額 合計	備考		
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計				
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤			同左 割引後 ⑦= ⑥÷①	
1	H 4	0.5553	-15			359	0	0	0	0	着工	
2	H 5	0.5775	-14			359	0	0	0	0		
3	H 6	0.6006	-13			359	0	0	0	0		
4	H 7	0.6246	-12			359	0	0	0	0		
5	H 8	0.6496	-11			359	0	0	0	0		
6	H 9	0.6756	-10			359	0	0	0	0		
7	H10	0.7026	- 9			359	0	0	0	0		
8	H11	0.7307	- 8			359	0	0	0	0		
9	H12	0.7599	- 7			359	0	0	0	0		
10	H13	0.7903	- 6			359	0	0	0	0	工事完了	
11	H14	0.8219	- 5			359	100.0%	359	359	437	完了公告	
12	H15	0.8548	- 4			359	100.0%	359	359	420		
13	H16	0.8890	- 3			359	100.0%	359	359	404		
14	H17	0.9246	- 2			359	100.0%	359	359	388		
15	H18	0.9615	- 1			359	100.0%	359	359	373		
16	H19	1.0000	0			359	100.0%	359	359	359	基準年	
17	H20	1.0400	1			359	100.0%	359	359	345		
18	H21	1.0816	2			359	100.0%	359	359	332		
19	H22	1.1249	3			359	100.0%	359	359	319		
20	H23	1.1699	4			359	100.0%	359	359	307		
~~~~~												
50	H53	3.7943	34			359	100.0%	359	359	95		
合計 (総便益額)										8,994	8,994	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したため、数値が一致しない場合がある。

## ルーク地区の費用対効果分析に関する説明資料

### 1 地区の概要

- ① 関係市町村：北海道樺戸郡新十津川町
- ② 受益面積：地すべり区域121ha、被害想定区域3, 411ha
- ③ 主要工事：抑制工1式、抑止工1式
- ④ 国営事業費：3, 978百万円
- ⑤ 事業期間：平成5年度～平成13年度（完了公告年度：平成14年度）

### 2 総費用総便益比の算定

#### (1) 総費用総便益比の総括

(単位：百万円)

区 分	算 定 式	数 値
総費用（現在価値化）	①	6, 269
評価期間（当該事業の工事期間+40年）	②	49年
総便益額（現在価値化）	③	12, 975
総費用総便益比（B/C）	④=③÷①	2. 06
基準年		平成19年度

#### (2) 総費用の総括

(単位：百万円)

区 分	施 設 名 (又は工種)	事業着工 時点の 資産価額 ①	当該事業費 ②	関連事業費 ③	評価期間 における 再整備費 ④	評価期間 終了時点の 資産価額 ⑤	総 費 用 ⑥= ①+②+③ +④-⑤
当 該 事 業	抑制工	—	5, 017	—	885	769	5, 133
	抑止工	—	1, 177	—	—	111	1, 066
	小計	—	6, 194	—	885	880	6, 199
そ の 他	関連事業	—	—	74	—	4	70
	小計	—	—	74	—	4	70
合 計		—	6, 194	74	885	884	6, 269

※主な施設を事例として示し、その他については省略している。

(3) 年総効果額の総括

(単位：百万円)

効果項目	区分	年総効果 (便益)額	効果の要因
農業用施設の災害防止効果		378	地すべり対策を行うことにより、地すべりによるダム施設への被害が未然に防止される効果
作物の災害防止効果		112	地すべり対策を行うことにより、地すべりによる作物への被害が未然に防止される効果
その他の資産の災害防止効果		28	地すべり対策を行うことにより、地すべりによる山林、道路への被害が未然に防止される効果
合計		518	

(4) 総便益額算出表

(単位：百万円)

評価 期間	年 度	割引率 (1+割引率)	経 過 年	地すべり被害防止額						割引後 効果額 合計	備考
				更新分 に係る 効果 年効果 額 ②	新設及び機能向上分 に係る効果			計			
					年効果 額 ③	効果発 生割合 ④	年発生 効果額 ⑤= ③×④	年効果 額 ⑥= ②+⑤	同左 割引後 ⑦= ⑥÷①		
1	H 5	0.5775	-14		518	0.0%	0	0	0	0	着工
2	H 6	0.6006	-13		518	0.0%	0	0	0	0	
3	H 7	0.6246	-12		518	0.0%	0	0	0	0	
4	H 8	0.6496	-11		518	0.0%	0	0	0	0	
5	H 9	0.6756	-10		518	0.0%	0	0	0	0	
6	H10	0.7026	- 9		518	0.0%	0	0	0	0	
7	H11	0.7307	- 8		518	0.0%	0	0	0	0	
8	H12	0.7599	- 7		518	0.0%	0	0	0	0	
9	H13	0.7903	- 6		518	0.0%	0	0	0	0	工事完了
10	H14	0.8219	- 5		518	100.0%	518	518	630	630	完了公告
11	H15	0.8548	- 4		518	100.0%	518	518	606	606	
12	H16	0.8890	- 3		518	100.0%	518	518	583	583	
13	H17	0.9246	- 2		518	100.0%	518	518	560	560	
14	H18	0.9615	- 1		518	100.0%	518	518	539	539	
15	H19	1.0000	0		518	100.0%	518	518	518	518	基準年
16	H20	1.0400	1		518	100.0%	518	518	498	498	
17	H21	1.0816	2		518	100.0%	518	518	479	479	
18	H22	1.1249	3		518	100.0%	518	518	461	461	
19	H23	1.1699	4		518	100.0%	518	518	443	443	
~~~~~											
49	H53	3.7943	34		518	100.0%	518	518	137	137	
合計 (総便益額)									12,975	12,975	

※経過年は基準年からの年数。

※作物生産効果額を事例として示し、その他の効果項目については省略している。

※表示単位未満の数値を四捨五入したので、数値が一致しない場合がある。